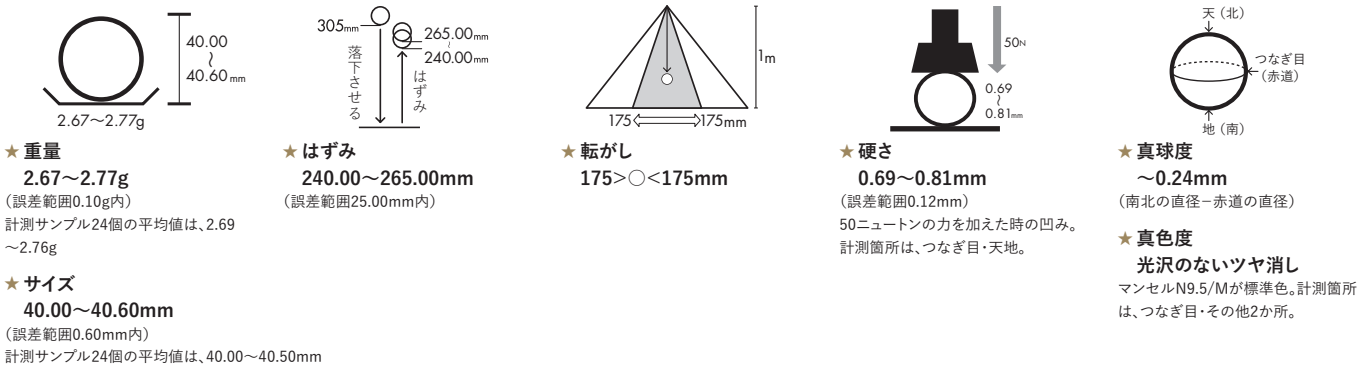


■ ボール基本情報

ITTF 国際卓球連盟 (ITTF) 公認検査項目



	硬式卓球	ラージボール
概要	19世紀後半イングランドで始まり、日本には1902年に伝わったと言われています。ラバーを貼ったラケットで回転とスピードを駆使し、相手よりも1本でも多く相手コートに返球し得点します。技術だけでなく、ボールを打ち合いながら相手の打球コースを予想し対応を考えて判断することが大切です。国際卓球連盟加盟国(地域・協会含む)は227(2021年)、全競技団体で世界最多を誇る、メジャースポーツです。	1988年、日本発のスポーツです。大きく軽いラージボールを使い、初心者でも高齢者でもラリーが続きやすいのが特徴です。身体と頭脳を同時に使うことで脳の血流が活性化され、認知症予防にも効果が期待され、健康寿命の延伸を目指すスポーツとしても注目を浴びています。全国各地で競技人口が増加の一途をたどり、人との結びつきを生み出しています。3世代で楽しめる、これからの時代のスポーツです。
ボール	硬式球 ● 直径 40mm ● 重さ 2.70g ボールはホワイトまたはオレンジ色。	ラージボール ● 直径 44mm ● 重さ 2.20～2.40g ボールはオレンジ色。軽くて大きく見やすい。回転量も少なくラリーが続きやすいです。
用具	シェークハンド ペンホルダーなど ラケットにラバーを貼ったものを使う。ラバーは右の3種類。 裏ソフト シート スポンジ (厚さは4mm以下) 表ソフト シート スポンジ 一枚	シェークハンド ペンホルダーなど ラケットにラバーを貼ったものを使う。ラバーは1種類。 裏ソフトのみ シート スポンジ (厚さは4mm以下) ※裏ソフトや粒高、一枚ラバーは禁止
ネット	高さ15.25cm ボールがネットを越えて相手コートへ着地	高さ17.25cm ボールがネットを越えて相手コートへ着地
対戦人数	1人対1人(シングルス) または 2人対2人(ダブルス) 	1人対1人(シングルス) または 2人対2人(ダブルス)

『国際公認球 と練習球』

ニッターは、世界最高峰の戦いを支えているだけではありません。その頂（いただき）を目指す選手を常に質の高い練習環境に導くことが、最高峰を支える者の使命と考えています。

■ 練習球の種類

公認球の「プラ3スタープレミアム」を作る工程で作られた「プラ2スター」もありますが、ほとんどは練習球を作ることを目的として生産をしています。ニッターでは、「プラ3スタープレミアム」に近い素材を開発して生産している「ジャパンスター」や「J」トップトレ球、「J」トップクリーントレ球」の他にも、多種の練習球を用意しています。個人練習から大人数のチーム練習まで。卓球を始めたばかりの方から、常に試合の感覚で練習したい方まで。練習内容やレベル、予算に合わせて選べるニッターの練習球をお選びください。

	サウンドテーブルテニス	卓球バレー
概要	音を頼りにボールを打ち合う競技で、以前は盲人卓球として行われていた、視覚障がい者の競技です。1930年代に栃木県足利盲学校で行われていたと記録されていますが、当初は各地で様々な形の「盲人卓球」が行われていました。通常、プレーヤーはアイマスクを着用します。弱視者も参加し、力を発揮することのできる卓球です。年齢を問わない幅広いスポーツとして全国各地で大会が開催されています。	1974年、筋ジストロフィー症児のために近畿地方の養護学校で行われたのが始まりです。今では競技人口5万人以上と言われ、日本発のスポーツとして海外でも楽しまれています。6人制バレーボールのルールに準じていて、障害や年齢に関係なく、様々な人が一緒に楽しみコミュニケーション能力を高められるのが特徴。華やかなバースワークで得点を競う、心身の健康にも有益なユニバーサルスポーツです。
ボール	サウンドボール ● 直径 40mm ● 重さ 3.6～3.8g(内、鉄球1g) ボールはオレンジ色。中に金属球が4個入っていて、転がると音が出ます。	サウンドボール ● 直径 40mm ● 重さ 3.6～3.8g(内、鉄球1g) ボールはオレンジ色。中に金属球が4個入っていて、転がると音が出ます。
用具	ラバーを貼らずに「木べら」を使用する。	長方形(縦横30cm以内)の木製板を使ってボールを打ち合う。
ネット	高さ42mm コートから42mmの高さのネットを下を転がして打ち合う	高さ57mm コートから57mmの高さのネットを下を転がして打ち合う
対戦人数	1人対1人(シングルス) ※プレーヤーはアイマスクを着用する。 	1チーム6人編成、計12人が卓球台周りにイスや車イスに座って競技する。

3 スター プレミアム クリーン

NECO'S(ネコス)ボール工場

ボールの成形、接着を行う産業ロボット

縫ぎ目、外形をコンピューターでチェック

重量は厳しく設定した自社規格に沿って1つ1つ検査

抜き打ち的にボールを取り出し、表面の状態や縫ぎ目を確認

バウンドや真円を計測する機械

これ以外にもボールの耐久性や硬度を測る機械の検査を受け、ボールは完璧に近い形で市場に出ています。